

大規模災害に備え、 大学と地域が手を取り、 共助で生き抜く地域を目指す

代表者
都市空間インフラ専攻 教授 鷲見 哲也

■概要・設置目的

本学のある名古屋市南区は、地震や水災害の際の「脆弱性」を持ち、災害の備えを要する地域です。

本ラボは、工学・社会科学等、学際的な視野のもと、地域と協力した平時からのまちづくり活動を行いながら、大規模災害に対して地域社会全体で対応する総合的な「減災-復興」システムを構築することを目指しています。

■課題・方向性

- ① 災害時における地域社会の脆弱性や対応力の調査・分析
- ② 脆弱性を縮減する活動・仕組みの検討
- ③ 発災後の復旧・復興を進める核となる復元力の検討
- ④ 上記の取り組みで得られた成果の社会への実装

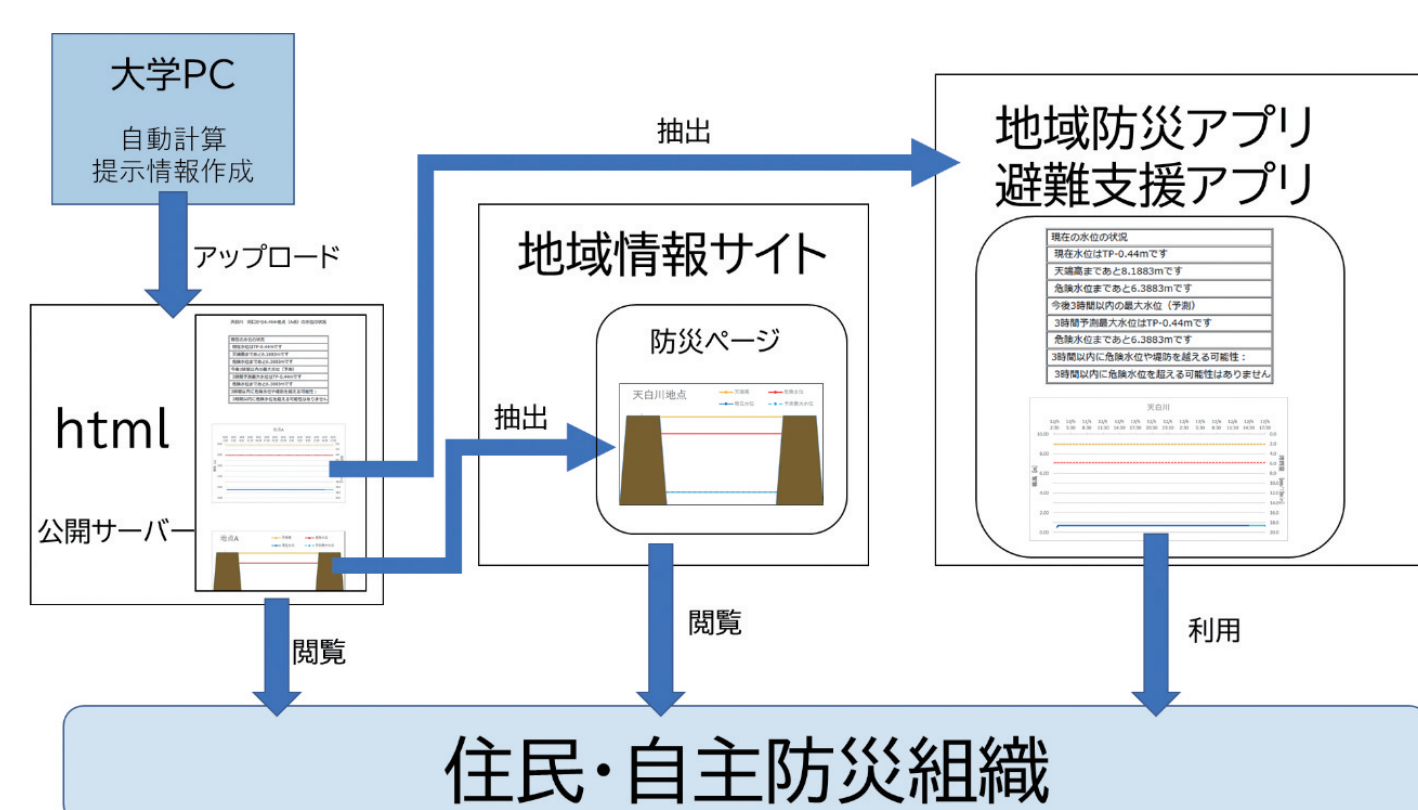
■経緯と現在の活動内容

【活動経過】

- ・学内に「コミュニティ防災ラボ」設置(2016年)
- ・名南中学校区にて防災シンポジウム開催(2016年～毎年継続)
- ・伊勢湾台風市民防災の集い(2019年、2024年)
- ・その他講演会やワークショップ開催
- ・名南学区周辺の水害リスクの分析と解説

【現在進行中の地域共同の取り組み(一部)】

- ・ローカルでいち早い水災害リスク情報サイトの開発
- ・防災アプリの開発と地域での実証(要配慮者支援)
- ・地域を知り、活用を促す企画



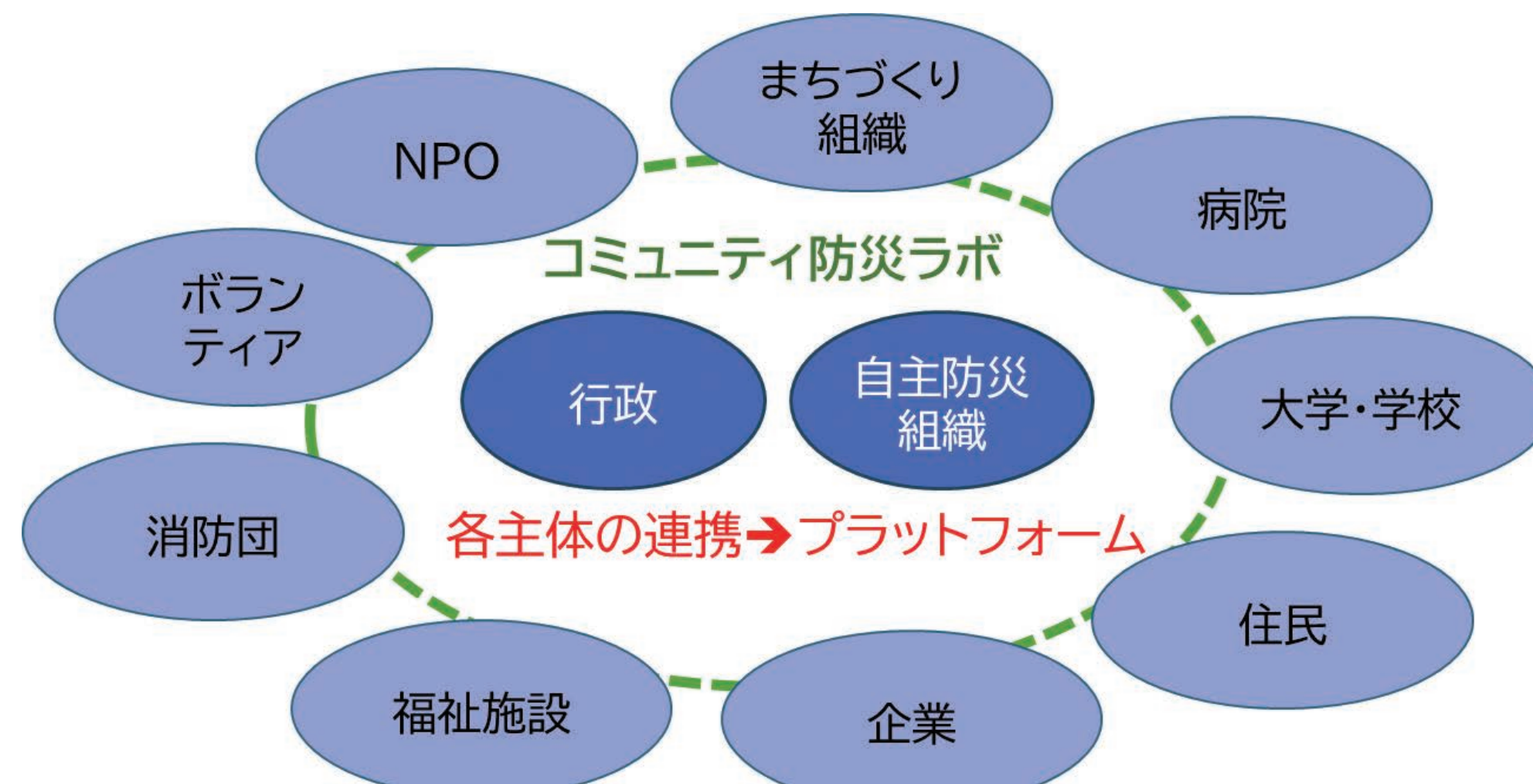
名南地区水災リスク
情報サイトの構想



名古屋市防災アプリの
概要・開発経緯

■ラボメンバー

鷲見哲也	教授(代表)	所属:都市空間インフラ専攻 役割:地域の水災害リスク
松木孝文	教授(副代表)	所属:人文社会教室 役割:地域社会に関するデータ収集と分析
樋口恵一	准教授(副代表)	所属:都市空間インフラ専攻 役割:新たな活動・仕組みの企画と評価
松下繁行	副理事長	所属:南医療生活協同組合 役割:地域との連携



地域の共助をつなぐプラットフォームづくり



市民防災の集いシンポジウム(毎年1回)



スマホ教室(毎月1回)



防災アプリの実証実験

伊勢湾台風65年 教訓を次世代へ



伊勢湾台風65年市民防災の集い(2024.9.29)が28日、南区の大ホールで開催された。防災に関するシンポジウムや体験型ブース、伊勢湾台風の被害の様子を振り返る写真展があった。

「伊勢湾台風65年市民防災の集い」が28日、南区の大ホールで開催された。防災に関するシンポジウムや体験型ブース、伊勢湾台風の被害の様子を振り返る写真展があった。

「伊勢湾台風65年市民防災の集い」が28日、南区の大ホールで開催された。防災に関するシンポジウムや体験型ブース、伊勢湾台風の被害の様子を振り返る写真展があった。

伊勢湾台風65年市民防災の集い
(2024.9.29 中日新聞)